



TITLE:

雜録

AUTHOR(S):

CITATION:

雜録. 日本外科宝函 1928, 5(3): 814-818

ISSUE DATE:

1928-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200125>

RIGHT:

雜 錄

八一四 (第參號 三三四)

△雜誌抄讀會演題

昭和三年二月カラ京都帝國大學醫學部及ビ京都府立醫科大學ノ兩外科教室合同デ抄録スルコトニナツタ。當日ハ來會者モ多ク種々ノ討論モ出デ活氣横溢シタ頗ル愉快ナ一タデアル。

二月二十七日(月)午後六時半 於樂友會館

- | | |
|-----------------------|-------|
| 一、脊髓癆ニ於ケル腹膜炎 | 黃 君 |
| 二、破傷風血清硬膜下注射ニヨル破傷風療法 | 近 藤 君 |
| 三、頭部外傷後ノ慢性頭痛ニ對スル特殊療法 | 荒 木 君 |
| 四、小轉子傷害トルドロツフ氏現象 | 宇 野 君 |
| 五、絹糸ヲ以テノ腱及ビ關節帶ノ補償 | 日 高 君 |
| 六、三叉神經痛 | 富 田 君 |
| 七、肋間神經痛ニ起因スル慢性偽性蟲樣突起炎 | 三 好 君 |
| 八、腎臟性尿失禁 | 田 淵 君 |
| 九、膽汁缺乏症ニ於ケル輸血問題 | 篠 田 君 |
| 一〇、遊走膽囊及ビ其ノ莖部捻轉 | 岩 松 君 |
| 一一、胃十二指腸潰瘍療法トシテノ胃部分的 | |

切除術ト胃腸吻合術

三月十九日(月)午後七時

- | | |
|----------------------|-------|
| 一、腫瘍ト神經 | 橫 田 君 |
| 二、「フルンケル」ノ自家血液療法 | 麻 生 君 |
| 三、上口唇感染ニ内皆靜脈ヲ結紮シテ | 松 山 君 |
| 四、新鮮骨折ニ於ケル骨膜ノ機械的作用 | 林 茂 君 |
| 五、骨髓性白血病ニ對スル脾剔出術 | 青 柳 君 |
| 六、創傷ノ一新療法 | 玉 置 君 |
| 七、胃潰瘍ニ對スル胃膽囊吻合術 | 中 野 君 |
| 八、連鎖狀球菌敗血症ト網狀織内皮細胞系統 | 勝 呂 君 |
| 九、輸尿管ノ完全防腐の大腸移植 | 神 原 君 |
| 一〇、淋巴腺移植ニ就テ | 牛 田 君 |
| 一一、麻醉藥「アベルチン」 | 巽 君 |
| 綜説、手術性氣胸 | 申茅講師 |

四月三十日(月)午後七時

- | | |
|---------------|-------|
| 一、骨結核ノ乾燥食療法 | 近 藤 君 |
| 二、人腎孟ノ蠕動ニ就テ | 馬 場 君 |
| 三、空氣壓ニ依ル側彎矯正法 | 西 島 君 |

盛 君

四、手術後ノ「アチド―ジス」
五、睪丸内輸精管移植ノ一新法

六、小兒ニ於ケル輸尿管狹窄ト慢性腎盂炎ニ就テ

七、酸素石鹼泡沫ヲ以テセル手指消毒法

八、外股皮神經痛ニ神經切除術ヲ用キテ

九、慢性下腿潰瘍ノ療法

一〇、胃潰瘍ニ對スルザットラー氏手術法ノ動物實驗

動物實驗

一一、流注膿瘍ト尿閉

一二、關節授働術ニ就テ

一三、脾神經叢ノ傳導遮斷ニ就テ

一四、慢性出血性絨毛關節炎ノ療法

一五、尿道手術ニ對スル留置「カテーテル」問題

一六、手術時消毒ノ實際範圍

一七、腎石及ビ腎下垂症ニ對シ外科的手術ノ腎機能ニ及ボス影響ニ就テ

△鳥 瀉 教 授

鳥瀉教授六月下旬春洋丸ニテ御歸學ノ御豫定ナリ。

△學 會 備 忘 錄

□

一 言 子

林 彌 君

坂 田 君

下 村 君

神 山 君

落 田 君

神 部 君

伊 藤 君

山 根 君

平 田 君

今 津 君

新 谷 君

柴 田 君

青 柳 君

小山 田 君

第二十九回日本外科學會ハ本年四月一日ヨリ三日間東大工學部大講堂デ開催サレタ。本年ノ會場ハ昨年ノ京大ノ講堂ニ比シテ遜色ハアルガ一昨年ノ會場ニ比較スレバ雲泥ノ相違デ落着イテ聞クコトガ出來タ。

□

演題ヲ一覽スルニ昨年ノ如ク題數ヲ少クシ類似ノモノヲ一括シテ討論ニ便ニシテアルガソノタメニ追加トナツタ演題ノ中ニモ注目ヲ惹クモノガ尠ナクナカツタ、演說ノ性質ハ斯界ノ趨勢ニ從ヒ實驗的研究ガ大部分ヲ占メ臨床の方面モ症例報告ハ殆ンド姿ヲ沒シ手術々式治療成績等ニヨツテ占メラル、ニ至ツタコトハ喜バシイコトデアル。

□

創傷殺菌劑ニ關スルモノハ本年ハ極メテ少數デアツタガ例年ノモノヨリモ實質的ニ進ンデ深ク研究シテアツタ。

輸血ニ關スルモノハ數題アツタガ、井上氏ノ「急性中毒ニ對スル輸血ノ効果」ニ對シテ土井氏ガ急性腸閉塞ノ際ニハ體液ノ缺乏ガ最モ重大ナルガ故ニ輸血ガリンゲル氏液ヲ遙カニ凌駕スルモノトハ思考出來ヌト突込ンダノニ對シ演者側ガ十分ノ解答ヲ與ヘナカツタノハ遺憾デアル。

□

交感神經外科ニ關スル演題ハ數ハ多クハナカツタガ何レモ興味アルモノデアツタ、淺見氏ハ新鮮ナル交感神經節ノ

組織的研究ヲ發表シ藤綱氏ハ外傷性浮腫ノ核心ニ觸レタ問題ヲ提供シタ、亦從來主トシテ京大ニ於テ檢討セラレタコノ部門ノ中ナル氣管支喘息ニ對スル療法ガ亦北大柳外科ニ於テモ研究セラレタコトハ喜バシク吉益氏石山氏等ノ追加モ甚ダ意義アルモノデアツタ。

□

胸部外科ニ關スルモノノ中特記スベキハ廣瀨氏ノ膿胸ノ治療方針デアル、膿胸ハ從來一定ノ科學的根據無ク單ニ臨床的經驗ニヨツテソノ治療方針ヲ立テ來ツタモノデアルガ同氏ハ膿中「イムペデン」ノ立證ト云フ動カスコトノ出來ナイ事實ニ立脚シテ極メテ鮮カニ膿胸ノ治療方針ヲ樹立シ而モ從來定説的ニ信ジラレテ居タ死腔形成ノ危險ヲ見事ニ打破シタモノデアル。

□

一昨年ノ學會以來胸腔手術ニ過壓裝置ヲ用フルノ適否ガ論争ノ中心トナリ毎年コノ問題ハ學界ヲ賑ハシテ居タガ愈々本年ニ至ツテ從來至難ノ業トセラレテ居タ洞横隔膜の噴門成形術ガ平壓開胸術ノ下ニ大澤氏ニヨツテ立派ニ成功シタノハ同學派ノミナラズ日本外科學會ノ爲メニモ喜ブベキコトデアル。

□

本年ノ學會ニ於テ新シキ現象ト見ルベキハ「レントゲン」

線ヲ取扱ツタ問題ガ多クナツタコトデアル、臨床的ノモノトシテハ齋藤氏ノ腦下垂體腫瘍ノ「レントゲン」學的診斷、河石氏ノ腎臟疾患ノ「レントゲン」診斷横須賀氏ノ唾液瘻ノ治療等デ實驗的ノモノニハ佐藤氏ノ「リビョドル」注入ニヨル胸廓成形術ノ觀察桂氏寺島氏ノ脾臟ニ及ボス「レントゲン」ノ生物學的作用等ガアツタ。「レントゲン」線ハアル程度マデ度量的ニ正確ニ量的關係ヲ明記シ得ルモノデアルカラ今後ハ此等ヲ十分ニ顧慮シタ報告ニ接シタイモノデアル。

□

本年ノ宿題脾腫ハ泉教授ノ擔當セルモノデアル、同氏ハ脾ノ大サ脾機能ニ關スル實驗脾腫ノ臨床的觀察等ノ項目ニ分ツテ述べタガ、實驗ニ新機軸ヲ出シ多クノ新事實ヲ獲得シタ點デ推賞スベキ業績デアツタ。

□

本年ノ學會ヲ見聞シテツク思フコトハ討論ガ非常ニ尠ナクテ淋シカツタコトデアル。勿論年々學會ノ性質ガ基礎的方面ニ傾イテ來テ居ルノハ爭ハレナイ事實デ大家ト雖モ輕々ニ嘴ヲ容レルコトガ出來ナクナツタ爲メデアラウガ本年ハ臨床的演題ニモ相當面白イモノガアツタノデアルカラモツト論戰ガアツテヨイ理デアル、ソレニツケテモ鳥漏關口兩教授ガ中心トナツテ討論ノ多カツタ一昨年ノ學會ガ愚バレル。

△近畿外科集談會

第二十六回近畿外科集談會ハ昭和三年六月三日(日)午前八時ヨリ神戸市神戸海運俱樂部ニテ開催セラル。ソノ演題左ノ如シ。

演 題

- 一、猿咬ニヨル蜂窩織炎ニ就テ 池田浩藏
- 二、惡性貧血ノ一例及其治療法ニ就テ 西島藤次郎
- 三、動脈瘤六例ニ就テ 小形治郎一
- 四、腹部大動脈血栓 清水源一郎
- 五、増殖纖維性虫樣突起炎ノ一例 富士原誠一
- 六、再ビ盲腸「ヘルニヤ」ニ就テ 阿部四郎
- 七、創面ノ臨床的測定法ニ就テ 山根齊
- 八、附腰薦交感神經切除術ニヨル下肢潰瘍治療速度 宇佐美五郎
- 九、交感神經切除ノ皮膚機能ニ及ボス影響 宇佐美五郎
- 一〇、色素及藥液ノ眼前房水移行ニ及ボス神經手術ノ影響 宇佐美五郎
- 一一、腦溢血後偏側麻痺ニ對スル頸部交感神經切除術ニ就テ 近藤銳矢
- 一二、破傷風受働性局所免疫 中川三朗
- 一三、局所麻醉ト局所免疫 中川三朗
- 一四、チールシュ氏植皮術ニ對スル卑見 中村一郎

- 一四、尿管ニ對スル「ピロカルピン」ノ應用ニ就テ 渡邊一二三
- 一五、輸尿管內持續「カテーテル」ノ臨床的效果 松本彰
- 一六、單純性慢性副辜丸炎ニ就テ 石田清夫
- 一七、結核性乳腺炎ニ就テ 渡邊一九
- 一八、上腹壁ノ寒性膿瘍ニ就テ 鈴木正次
- 一九、脊椎「カリエス」ニ於ケル索狀筋症狀ニ就テ 高橋靜雄
- 二〇、筋緊張症「バルキンソンニスムス」等ニ對スル曼陀羅華葉末ノ効果ニ就テ 勝呂進
- 二一、「エリトロメラルギー」ノ自家血液注射治療 稻富直造
- 二二、象皮病ノ治療方針 青柳安誠
- 二三、フライト氏病ノ外科的療法 荒木千里
- 二四、稀有ナル小兒骨疾患ノ一例 加藤喜久男
- 二五、中毒性痛風症例 岩崎農
- 二六、バスチアン氏現象ニ就テ 伊藤弘
- 二七、脾臟剝出患者ノ手術ニ對スル抵抗力ニ就テ 大野良藏
- 二八、脾肝臟破裂ニ就テ 由茅二五四
- 二九、肝臟異物ノ一例 太田進
- 三〇、「セクレチン」ノ作用ト肝臟トノ關係 勝部育郎
- 三一、腦腫瘍ノ症狀ヲ呈セル頭蓋骨肉腫ノ治療例 高折隆一

三、腹腔辜丸癌腫ノ一例	(石本佐吉)	腎臟ノ諸種細菌通過ニ關スル實驗的研究(第一回報告)	佐々木秀貫
三、辜丸腫瘍ノ肺臟轉移ノ一例	落田太學	四、平壓開胸開腹術ニ就テ	青柳安誠
四、腹膜假性粘液腫ニ就テ	勝木直次	五、胃切除術ノ選擇	岩永仁雄
五、腹腔内腫瘍ノ臍轉移ニ就テ	三好清纓	五、胃全剔出患者ノ營養物吸收實驗	島薰
六、興味アル經過ヲトレル原發性肝癌ノ一例	神部信雄	五、急性胃擴張ノ一觀察	巽馨
七、クルツケンベルグ氏腫瘍ニ就テ	宇津猷彦	五、胃下垂症ニ對スル胃切除術	大澤達
八、肺壞疽ノ手術治驗例	阪越慶三	五、胃切除後胃腸吻合術ノ一新術式ニ就テ	大澤達
九、肺放線狀菌病ノ二例	中野武	五、胃切除後ニ來レル「アトニー」ニ就テ	後藤亮一
四、「アクチノミコーゼ」ノ「エックス」線治療例	久田賢次		
四、「レントゲン」寫眞ニヨル簡單ナル體內異物位置確定法	島薰		
四、脊椎骨諸疾患ノ「レントゲン」所見	河村叶一		
三、新着外國「レントゲン」型錄供覽「レントゲン」裝置ノ進歩	齋藤大雅		
四、日本人ノ微毒感染ト血液類型トノ關係	古賀伊一郎		
四、消化腺機能ニヨル血液内「カリウム」及「カルシウム」ノ消長ニ就テ	吉岡繁雄		
四、急性腸閉塞ノ血液食鹽ニ及ボス影響ニ就テ	岩島武次		
四、腎臟血管ノ結紮後ニ於ケル血壓ノ變化ニ就テノ實驗的研究	後藤翠		